



四日市の砂浜

千

字 万 感

株式会社三重銀行
取締役会長 種橋 潤治

四日市の海岸には、国際拠点港湾である四日市港、地域産業の一翼を担うコンビナートの工場地域、そしてウミガメが産卵に訪れる砂浜があります。

現在の四日市に砂浜のイメージは余り浮かんでこないかもしれませんが、そもそも四日市の海岸は伊勢湾に面して砂浜が広がっていました。伊勢湾台風までの四日市は富田浜、霞ヶ浦等の海水浴場があり、夏場は近鉄や国鉄が最寄駅に臨時停車したり、増発列車を走らせたりして、名古屋方面からも海水浴客が沢山訪れました。また、江戸時代の東海道を描いた広重の「富田立場之図」に「名物焼はまぐり」の看板があるように、桑名と四日市の中の宿である富田立場で近郊の海の砂浜で獲れたと思われるハマグリを松毬で焼いて名物にしていたのです。

昭和30年代の後半から、護岸堤防の建設、工業化の伸展、港湾施設の拡充に伴って、砂浜は縮小してきましたが、今も楠地区(旧楠町が平成17年四日市市と合併)には、長さ約1キロメートルの自然海岸、吉崎海岸があります。この砂浜にはハマヒルガオ、ハマダイコン、ハマエンドウ等の海浜植物が生息し、三重県の県鳥であり絶滅が危惧されているシロチドリの営巣地にもなっています。また、キス釣りの人気スポットでもあり、釣り人が投げ釣りを楽しむ姿が見受けられます。ここは、アカウミガメが産卵に訪れる場所にもなっており、最近では平成26年7月に産卵が確認されています。ウミガメの産卵の環境整備と保護のため、地域のNPOや大学のサークルの方々が努力を続けておられますが、今年はまだ産卵の確認はされていないとのこと。できれば、子ガメが海に向かって砂浜を駆けていく姿をみたいものです。さらに、吉崎海岸では、現在、水質浄化機能とアサリの母貝場としての機能を期待して、三重県が干潟造成を行っています。

県外からの観光客が多数お越しになる「夜景クルーズ」で人気の高いコンビナートの工場群に隣接する美しい砂浜、産業と自然の調和の素晴らしさ、そしてそれを保つことの大切さを教えてくれる風景に心を癒されるのは私一人ではないと思います。これからも、地域の皆さんの努力を応援していきたいものです。